

家庭科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・家庭科ボランティア（学校支援地域本部）の協力を得て、調理と裁縫の実習ではきめ細かい指導ができた。多くの児童に、技能の基礎基本を、確実に身に付けさせることができた。
- ・家庭生活における衣・食・住について、実習を通して学習することで、興味をもって学習に取り組み、理解を深めることができた。
- ・自分たちにとって身近な学習内容が多く、意欲的に学習に取り組むことができた。

【 課題 】

- ・学習したことを生かし、工夫して実践する力を身に付けさせることが課題である。衣食住にわたって、家族の一員として家庭生活に関わっているという意識を持たせることで、日常生活に生かそうとする意欲を育てる。
- ・調理や裁縫の技能の習得は個人差が見られる。家庭科ボランティアの協力を得たり、児童同士の学び合いを通しての指導をすることで、技能の基礎基本を、身に付けさせるようにする。

学習状況の分析

○知識・技能

- ・裁縫では、基礎的・基本的な技能を身に付けている児童もいるが、個人差が大きい。
- ・調理では、日常生活の中からも、知識や経験を得ている児童も見られるが、技能の差が大きい。

○思考・判断・表現

- ・日常生活の中で意識的に創意工夫する場面はまだ少ない。しかし、学習の中で掃除や洗濯などの実習場面では話し合っ工夫したり、経験を生かして創意工夫したりする様子も見られる。

○主体的に取り組む態度

- ・実習には意欲的に取り組む児童が多い。学習したことを家庭で実践する児童も見られる。一方で、学習したことを活かして実践するというところまでは至っていない児童も一部いる。

授業改善のポイント（観点別）

【 5年生 】

○知識・技能

- ・手縫いの基礎や、ボタン付けの方法を知り、簡単な作品の製作を通して生活に生かせる楽しさを味わわせ、技能を確実に身に付けさせる。
- ・ゆでる調理方法の基本を身に付け、調理を身近に感じさせ、取り組ませるようにする。
- ・家庭科ボランティアの協力を得て、きめ細かく指導する。

○思考・判断・表現

- ・お金の使い方や、季節に合わせた着方や住まい方を学習することで、自分でも工夫できる生活改善があることに気付かせる。
- ・家族と過ごす時間の大切さを知り、家庭で団らんの時間をつくれるようにする。

○主体的に取り組む態度

- ・高学年となって新しく始まる学習に対して、楽しく取り組めるように、きめ細かくオリエンテーションを行い、学習内容についての理解を深めさせ、用具などについても十分な準備をさせる。
- ・授業を通して行ったことを家庭で実践していけるように、保護者の協力も得て、家庭生活と学習したことをつなげるようにする。

【 6年生 】

○知識・技能

- ・日常生活の中から問題を見だし課題を設定し、必要感をもって学習できるようにする。
- ・「衣生活」の学習に関しては、裁縫に苦手意識をもつ児童が多いため、玉止めや玉結び等、基本的な技能について5年時の既習事項についても手順を示し、繰り返し復習させる。
- ・技能の確実な定着を図るためにも、家庭科ボランティアの協力を得て、きめ細かく指導する。

○思考・判断・表現

- ・調理や住まい方の学習では、自分の家庭生活を踏まえ、タブレットを用いて献立を考えたり住まい方を工夫したりした結果を交流させる。
- ・「布を用いた物の製作」では、家庭生活を振り返らせ、それぞれの児童が自分に合った計画を立てて取り組ませるようにする。
- ・家庭生活は、地域とのつながり、国際社会や情報社会ともつながっていることにも気付かせるために、具体的にどのようなかわりがあるか交流しイメージを膨らませられるようにする。

○主体的に取り組む態度

- ・日常生活をより「豊かにするために」という視点を与え、進んで家庭での実践や社会への参画しようとする意識を醸成させるようにする。
- ・5年生で学んだことを生かして、より家庭生活の向上を目指して主体的に学習できるよう、課題と活動を明確に提示する。